

兵庫県こころのケアセンター 18年度外部評価委員会業績評価(個別事業評価)

評価対象事業	評価	コメント
1 研修事業	S	<p>① 多様なトラウマに関わる研修が保健・医療・福祉等の専門識者へ充実した研修内容として適切に行われている。また、受講生の満足度も高く、専門研修の役割を十分に果たしており、大いに評価できる。</p> <p>② 今後において専門職のスキル向上は、支援の質を高める上で非常に効果的で重要であり、更にニーズを引き出す評価も必要である。</p> <p>③ 欲を言えば、遠隔地の者が参加しやすいように出前講座があればよいのではないかな。</p> <p>④ トラウマやPTSDを扱う機関は増えてきているので、受講者の対象地域は広げても西日本ぐらいまででよいのではないかな。</p>
2 情報の収集発信・普及啓発事業	A	<p>① シンポジウムの開催時間が3時間では受講者の消化不良を危惧する。また、ビデオやDVDなどにして貸出制度があってもよい。</p> <p>② ホームページには、研究成果などを積極的に公表されるなど更なる活用を希望する。</p> <p>③ こころのケアに関する情報を一般社会に向けて発信してほしい。</p>
3 連携・交流事業(研修情報課部門)	A	<p>① 現在の人員の中で研究推進協議会(1回)、研修連絡調整会議(1回)、および研修交流会(2回)開催しており、研修情報課部門の連携・交流事業として評価できる。</p> <p>② 連携・交流を促進し、広域的なネットワークづくりが目標としても、もう少し参加者の主体的な関わりができるようなワークショップ形式を考えてはどうか。</p> <p>③ 連携先を今後拡大していくこと、更に内容を発展していくことを期待する。</p> <p>④ セミナーが2回開催されているが、参加者のアンケートによる意見の汲取りが不十分であり、今後の工夫が必要と思われる。</p>
4 連携・交流事業(相談室部門)	A	<p>① 災害時等の支援チームの派遣については、初期支援に関するコンサルテーション機能的が発揮されており、現実的な支援が行えている。</p> <p>② JR福知山線脱線事故被害者などに対する支援を通して、こころのケアに取り組む関係機関や関係者の連携交流を図るとともに、広域的なネットワークづくりをすすめており、相談室部門の連携・交流事業として評価できる。</p> <p>③ 災害時等の支援については、フレキシブルにいつでも対応できる人員体制を作る必要がある。</p> <p>④ 災害事故などへの緊急支援チームの派遣など国内外の活動に顕著なものがあるが、次世代に向けてのこころのケアのノウハウを確実に集積し伝えるためにも、災害事件事故の緊急支援チーム養成事業を企画してみてもどうだろうか。メンバーは、各組織から推薦された者を対象に、年に数回の研修を実施し、要請を受けて出動する。現在、こころのケアセンターの職員はかなりオーバーワークではないだろうか。</p>
5 相談事業	A	<p>① 土曜日開庁の継続により、県民サービスの上でも相談事業は評価に値する。その結果、更にニーズが生まれている。</p> <p>② トラウマ・PTSDに関する相談の専門機関であることをPRすべきである。</p>
6 附属診療所の運営	S	<p>① トラウマに関する診療のニーズに十分応えている。全国的にもトラウマに特化した治療機関はほとんどなく、社会的にも大きな貢献を果たしている。</p> <p>② 土曜日開庁はよい試みである。</p> <p>③ 信頼できる専門的治療を行っている点は評価できるが、実践的研究フィールドとしての機能が発揮できていないように思われる。</p> <p>④ JR福知山線脱線事故の被害者も多く受診しており、事故の外傷ストレス障害の治療の有用性に関する社会的な認識を高めた点など評価される。</p> <p>⑤ 受診件数が増加していると思われる。現状を踏まえて今後も受診件数が増加することになれば、その対応として人員面の拡充が必要である。</p>
7 センター事業運営の効率化	A	<p>① この分野の研究・研修事業・臨床活動を主体として、収入を確保することは至難である。診療所患者数など年度計画を達成しており、更に効率的なセンター運営に取り組んだ結果、余剰金を発生しており、効率的な運営をしていることを評価する。</p> <p>② 診療は2,810名という多くの患者を受け入れている。またストレスドックを教育委員会とタイアップして、検診者を受け入れるなどの工夫を行っている。</p> <p>③ 宿泊室を維持運営すべきかは検討した方がよい。宿泊を伴う受講者の宿泊室の利用率をチェックすることも必要である。</p>

※判定基準

S:年度計画を大きく上回り、中期計画を十分に達し得る優れた業績を上げている。

A:年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B:年度計画どおりといえない面もあるが、工夫若しくは努力によって中期計画を達し得る。

F:年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性がある。